

日本標準商品分類番号

8 7 3 1 3 2

※※2005年4月改訂(第4版)
※2002年11月改訂

ニコチン酸アミド製剤

ニコチン酸アミド散 10%

ニコチン酸アミド散ゾンネ

NICOTINAMIDE POWDER ZONNE

承認番号	(36A)4175
薬価基準収載	1953年8月
販売開始	1961年12月
再評価結果	1977年5月

貯法	遮光した気密容器 室温保存
使用期限	外箱に記載 (5年)

※【組成・性状】

販売名	ニコチン酸アミド散ゾンネ
成分・含量 (1g中)	(日局) ニコチン酸アミド 100mg
添加物	乳糖、バレイショデンプン
性状	わずかな苦味を有する白色の粉末で おいはない。

【効能・効果】

- ニコチン酸欠乏症の予防及び治療(ペラグラなど)、ニコチン酸の需要が増大し、食事からの摂取が不十分な際の補給(消耗性疾患、妊産婦、授乳婦、はげしい肉體労働時など)
- 下記の疾患のうちニコチン酸の欠乏又は代謝障害が関与すると推定される場合
口角炎、口内炎、舌炎、接触皮膚炎、急・慢性湿疹、光線過敏性皮膚炎、メニエル症候群、末梢循環障害(レイノー病、四肢冷感、凍瘡、凍傷)、耳鳴、難聴
- 2.の適応(効能又は効果)に対して、効果がないのに月余にわたって漫然と使用すべきでない。

【用法・用量】

ニコチン酸アミドとして通常成人1日25~200mgを経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。

【使用上の注意】

- 高齢者への投与
一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。
- 妊婦、産婦、授乳婦等への投与
妊婦、産婦、授乳婦等への投与に対する安全性は確立していない。
- 小児等への投与
小児等への投与に対する安全性は確立していない。

【薬効・薬理】

ニコチン酸アミドはニコチン酸とともにNAD(ニコチンアミド・アデニン・ジヌクレオチド)、NADP(ニコチンアミド・アデニン・ジヌクレオチド・リン酸エステル)に組み込まれ、脱水素酵素の補酵素として広く生体内の酸化還元反応にあずかる。¹⁾²⁾³⁾基質となる化合物はアルコール、各種の有機酸、アミノ酸、糖、脂質等極めて広範囲にわたり⁴⁾細胞の酸化還元反応に不可欠である。

ニコチン酸アミドはペラグラと関係の深い多くの皮膚疾患(口角炎、口内炎、舌炎、急・慢性湿疹、接触皮膚炎、光線過敏性皮膚炎)の治療に用いられる。⁵⁾⁶⁾また細胞の酸化還元反応に不可欠であることから、末梢循環障害(レイノー病、四肢冷感、凍瘡、凍傷)に、更に内耳の迷路細胞の呼吸機能を賦活することから、耳鳴、難聴の治療に用いられる。⁷⁾⁸⁾

【有効成分に関する理化学的知見】

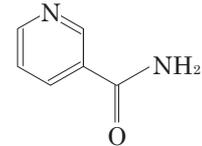
一般名: ニコチン酸アミド

Nicotinamide

化学名: Pyridine-3-carboxamide [98-92-0]

分子式: C₆H₆N₂O : 122.12

構造式:



融点: 約128~131℃

性状: 本品は白色の結晶又は結晶性の粉末で、においはなく、味は苦い。本品は水又はエタノール(95)に溶けやすく、ジエチルエーテルに溶けにくい。

【包装】

500g

【主要文献】

- L.S.Dietrich, O.Muniz, M.Powanda : J.Vitaminol. 14, 123(1968)
- J.Preiss, P.Handler : J.Biol.Chem. 233, 488(1958)
- C.Streffer, J.Benes : Europ.J.Biochem. 21, 357(1971)
- 大西 豊、大野惇吉 : 化学の領域 28, 289, 380(1974)
- 平田欣一 : 臨皮泌 7, 593(1953)
- 斎藤忠夫 他 : 皮膚と泌尿 19, 6(1957)
- 原田好雄 : 耳鼻と臨床 10, 1(1964)
- 河村正三 : Ther.Res. 4, 581(1986)

※※【文献請求先】

〒103-8439 東京都中央区日本橋本町3-4-1
鳥居薬品株式会社 学術情報部
TEL 03(3231)6834
FAX 03(5203)7335

※※ 製造販売元  ゾンネボード製薬株式会社
東京都八王子市散田町5-7-14

販売元  鳥居薬品株式会社
東京都中央区日本橋本町3-4-1